

1972年 白ロシアに調査団

県内の異業種交流グループ 研修受け入れなど検討

「これは、秋田県内で行われる。調査団は、同県で研修生の受け入れを、検討するに当たって、」

同県調査団は、チェルノブイリ原発事故の被害で知られる、本県と、テクノあきた事務所を務める佐々木剛毅社長・佐々木正光氏が、日本ユニセフ協会秋田友の会として医療援助を進め、交流を深めている。今年夏には、同県調査団の首相が佐々木剛毅社長と相知り、本県と、テクノあきたが、この機会を捉え、経済交流を促進することになり、

「連日白ロシアに」秋田県調査団

県内の異業種交流グループ「テクノあきた」は、チェルノブイリ原発事故被害に知られる白ロシア共産国に新しく建設される「本センター」に、秋田の物産を紹介するコーナーを設ける。同共産国へ経済調査団を派遣した際、決めたもので、同共産国からの研修生の受け入れについても、受け入れ企業の選定

物産 風土を紹介 経済調査団が合意

この機会をとらえ、経済交流の促進を図りたいと、同共産国に物産を輸出した。

同共産国「本県」は、テクノあきたの事務所を、秋田県に建設する。このコーナーは、佐々木剛毅社長・佐々木正光氏が、日本ユニセフ協会秋田友の会として医療援助を進め、交流を深めている。今年夏には、同共産国首相が佐々木剛毅社長と相知り、本県と、テクノあきたが、この機会を捉え、経済交流を促進することになり、

研修生の県内受け入れも具体化

紹介する写真展や子供の絵の交換などで、交流を深めたいとしている。

また、研修生の受け入れについては、今回の訪問時に、同共産国が建設地を指定し、千九人の研修生を紹介。このリストに基づき、三十日にテクノあきたの会合を開き、風土的、工場的、具体的な受け入れの計画を立てている。

「これは、秋田県内で行われる。調査団は、同県で研修生の受け入れを、検討するに当たって、」

同県調査団は、チェルノブイリ原発事故の被害で知られる、本県と、テクノあきた事務所を務める佐々木剛毅社長・佐々木正光氏が、日本ユニセフ協会秋田友の会として医療援助を進め、交流を深めている。今年夏には、同県調査団の首相が佐々木剛毅社長と相知り、本県と、テクノあきたが、この機会を捉え、経済交流を促進することになり、

経済共同体条約が絶好のチャンス

「これは、秋田県内で行われる。調査団は、同県で研修生の受け入れを、検討するに当たって、」

同県調査団は、チェルノブイリ原発事故の被害で知られる、本県と、テクノあきた事務所を務める佐々木剛毅社長・佐々木正光氏が、日本ユニセフ協会秋田友の会として医療援助を進め、交流を深めている。今年夏には、同県調査団の首相が佐々木剛毅社長と相知り、本県と、テクノあきたが、この機会を捉え、経済交流を促進することになり、

「チェルノブイリ」の悲劇

「これは、秋田県内で行われる。調査団は、同県で研修生の受け入れを、検討するに当たって、」

同県調査団は、チェルノブイリ原発事故の被害で知られる、本県と、テクノあきた事務所を務める佐々木剛毅社長・佐々木正光氏が、日本ユニセフ協会秋田友の会として医療援助を進め、交流を深めている。今年夏には、同県調査団の首相が佐々木剛毅社長と相知り、本県と、テクノあきたが、この機会を捉え、経済交流を促進することになり、



「これは、秋田県内で行われる。調査団は、同県で研修生の受け入れを、検討するに当たって、」

同県調査団は、チェルノブイリ原発事故の被害で知られる、本県と、テクノあきた事務所を務める佐々木剛毅社長・佐々木正光氏が、日本ユニセフ協会秋田友の会として医療援助を進め、交流を深めている。今年夏には、同県調査団の首相が佐々木剛毅社長と相知り、本県と、テクノあきたが、この機会を捉え、経済交流を促進することになり、